

## 平成20年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立鬼怒中学校

家庭や地域から「信頼される学校」にするため、一番「開かれた学校づくり」を推進する必要がある。

こうした考えから、今年度4月に実施した平成20年度「全国学力・学習状況調査」結果を以下のとおり公表します。

また、調査結果には、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切なので、調査結果の分析、指導の改善策なども併せて掲載する。

### I 調査の概要

#### 1 目的

ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

#### 2 調査期日

平成20年4月22日（火）

#### 3 調査対象

第3学年

#### 4 本校の参加状況

① 国語A 177人 国語B 176人

② 数学A 176人 数学B 179人

#### 5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「全体的な傾向」、「分類・区分別の傾向と課題」などの分析を併せて記載した。

## II 調査結果の概要

### 1 国語

#### 全体的な傾向

- ・国語A（知識）の平均正答率は全国平均より低く、正答数の分布状況は頂点が29問であり、29～34問正答の生徒の割合は全国より低い。
- ・国語B（活用）の平均正答率は全国平均より低く、正答数の分布状況は頂点が6問であり、6～10問正答の生徒の割合は全国より低い。

#### <分類・区分別集計結果>

##### 【国語A】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	5	75.3	81.2	80.1
	書くこと	2	55.6	58.7	55.2
	読むこと	9	63.0	71.0	71.0
	言語事項	18	69.6	75.3	75.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	1	71.2	85.1	87.3
	話す・聞く能力	5	75.3	81.2	80.1
	書く能力	2	55.6	58.7	55.2
	読む能力	9	63.0	71.0	71.0
	言語についての知識・理解・技能	18	69.6	75.3	75.2
問題形式	選択式	21	67.7	72.5	71.3
	短答式	13	68.1	76.5	77.4
	記述式	0			

##### 【国語B】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	0			
	書くこと	4	34.5	46.3	46.7
	読むこと	10	52.7	61.6	60.8
	言語事項	1	40.9	60.4	60.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	33.5	46.9	46.9
	話す・聞く能力	0			
	書く能力	4	34.5	46.3	46.7
	読む能力	10	52.7	61.6	60.8
	言語についての知識・理解・技能	1	40.9	60.4	60.5
問題形式	選択式	6	64.9	71.8	70.3
	短答式	0			
	記述式	4	34.5	46.3	46.7

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

## 分類・区分別の傾向と課題

### 【話すこと・聞くこと】

●A 領域の平均正答率は全国平均より4.8ポイント低い。特に、効果的なインタビューのための準備をすることに課題がある。

### 【書くこと】

○A 領域の平均正答率は全国平均より0.4ポイント高い。

●B 領域の平均正答率は全国平均より12.2ポイント低い。特に、文章に表れているものの見方や考え方について理解して説明することに課題がある。

### 【読むこと】

●A 領域の平均正答率は全国平均より8ポイント低い。特に、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことに課題がある。

●B 領域の平均正答率は全国平均より8.1ポイント低い。特に、論理の展開の仕方に即して内容を読み取ることに課題がある。

### 【言語事項】

●A 領域の平均正答率は全国平均より5.6ポイント低い。特に、文脈に即して漢字を正しく読むことに課題がある。

●B 領域の平均正答率は全国平均より19.6ポイント低い。四字熟語に関する知識に課題がある。

## 国語に関する生徒質問紙調査の状況

### 《傾向》

- 「読書は好きですか」の質問に対する肯定的割合は73.7%と全国平均より6.7ポイント高い。
- 「国語の授業で学習したことは、将来社会に出たとき役に立つと思いますか」の質問に対する肯定的割合は80.5%と全国平均より0.9ポイント高い。
- 「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」の質問に対する肯定的割合は、全国で39.8%であるが本校は、それより10.1ポイント低い。

## 指導改善のポイント

### 【話すこと・聞くこと】

・話を的確に聞き取ったり、話し手の意図を考えながら聞いたりする機会を数多く設定する。

### 【書くこと】

・文章を読み、読み取った内容を自分の言葉に直して書いたり、要約を書いたりする機会を数多く設定し、文章を理解して書くことに慣れさせる。

### 【読むこと】

・多種多様な文章に接する機会を多くし、論理の展開の仕方に即して読んだり、読み取ったことをまとめて書いたりするなどの習慣をつける。

### 【言語事項】

・学習した漢字や語句を文脈の中で適切に使えるようにし、関心を持って実際の言語活動の場面で使用できるようにする。

## 2 数学

### 全体的な傾向

- ・ 数学A（知識）の平均正答率は全国平均より低い。正答率の分布状況は21問を頂点としており23問～30問（正答率70～80％）の割合が全国に比べ低い。
- ・ 数学B（活用）の平均正答率は、全国平均より低い。10問（正答率75％）以上の割合が全国に比べ低い。

### <分類・区別集計結果>

#### 【数学A】

分類	区分	対象設問数	平均正答率（％）		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	数と式	12	58.7	67.3	68.0
	図形	12	56.5	63.5	62.7
	数量関係	12	53.0	60.4	58.6
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	0			
	数学的な表現・処理	17	54.5	63.1	62.5
	数量・図形についての知識・理解	19	57.4	64.3	63.6
問題形式	選択式	16	57.4	62.8	61.8
	短答式	20	55.0	64.5	64.1
	記述式	0			

#### 【数学B】

分類	区分	対象設問数	平均正答率（％）		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	数と式	3	44.1	55.9	54.2
	図形	3	46.9	57.4	57.6
	数量関係	9	36.4	43.9	44.7
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	13	37.7	47.0	47.0
	数学的な表現・処理	2	55.3	62.3	63.1
	数量・図形についての知識・理解	0			
問題形式	選択式	5	49.5	54.8	55.2
	短答式	4	52.0	62.6	62.5
	記述式	6	24.3	35.1	35.3

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

## 分類・区分別の傾向と課題

### 【数と式】

●A領域の平均正答率は全国平均より 9.3 ポイント低い。特に等式の変形や方程式に関する理解が不十分である。

●B領域の平均正答率は全国平均より 10.1 ポイント低い。数の性質を説明する力が身に付いていない傾向にある。

### 【図形】

●A領域の平均正答率は全国平均より 6.2 ポイント低い。図形の性質についての知識が不十分である。

○A作図についての設問の正答率は全国平均より高い。

●B領域の平均正答率は全国平均より 10.4 ポイント低い。図形の性質を利用して、証明する力が身に付いていない。

### 【数量関係】

●A領域の平均正答率は全国平均より 5.6 ポイント低い。一次関数についての理解が不十分である。

○A変域についての設問では全国平均よりやや高い。

●B記述式での正答率が低く、無解答も多くなる傾向がある。

## 数学に関する生徒質問紙調査の状況

### 《傾向》

○ほとんどの質問で全国平均より3～7ポイント高い。

○「数学の授業は大切だと思いますか」の質問に対する肯定的割合は、84.4%と全国平均より6.3ポイント高い。

●「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の質問に対する肯定的割合は、全国の34.5%より3.8ポイント低い。

## 指導改善のポイント

### 【数と式】

・文字式の有効性を理解させる機会の充実を図り、文字式を利用して説明をする力を身につけさせる。

### 【図形】

- ・視覚に訴えるような教材を用いることで、図形の基本性質の定着をはかる。
- ・証明の基本的な構成を理解させた上で、物事を筋道たてて説明する力を養う。

### 【数量関係】

・関数の学習において、身近な事象と結びつけて考える機会の充実を図り、表・式・グラフの活用能力を高める。

### 3 生徒質問紙調査

●…課題があるもの

#### 《傾向》

- 「学校で好きな授業がありますか」の質問に対する肯定的な割合は、80.4%と全国平均より3ポイント高い。
- 「学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間勉強しますか」の質問に対して1時間以上という割合は、全国平均65.4%より9ポイント低い。